

南会津 のうりんニュース

今月の写真:「根小屋甲の秋」

田島合同庁舎の裏には、立派なメタセコイヤがあります。「生きた化石」と言われているこの木は、植樹されて約40年以上経っています。通りからは見えないところにありますので、隠れた紅葉の名所かもしれませんね。

今月の内容:

- 今月のトピックス
 - ・南会津の地人学2～豊かな食生活体験学習会～を開催!
 - ・「毎月8日はごはんの日」をPR!
 - ・グリーンアップ作戦を実施!
 - ・南会津地方森林セラピー研究会が発足しました! 他
- 集落営農推進情報
 - 下郷町における集落営農の取り組み
- 南会津のこれが食べたい!!
 - 「しんごろう」(田島町農林課)
- 特集!
 - みんなで、地域農業すばらしい農村環境を、守っていこう!
- 今月のコラム

平成17年11月11日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

南会津の地人学2～豊かな食生活体験学習会～を開催!

地域ではぐくまれた郷土食についての体験、試食等を通じ地域の食文化について学ぶことを目的として、去る10月22日に「南会津の地人学2～豊かな食生活体験学習会～」を開催しました。

当日は、田島町・下郷町の小学生以下の子どもとその親8組(21名)が参加し、郷土料理教室(つゆじとしんごろう作り)、木地(木製椀)製作実演見学、きのこ生産者(渡部善一氏(下郷町))の施設見学、漁業体験(魚釣り体験)などを行い、昼食は、参加者全員で作ったつゆじとしんごろうを食べました。

郷土料理や地域農林水産物のことが理解できたこの体験学習会をきっかけに、これからも健全な食生活を実践していきたいですね。

(地域農林企画室、南会津教育事務所)

「毎月8日はごはんの日」をPR!

県では平成14年度から「地産地消」の推進に取り組んできましたが、より一層推進するために、今年度

から10月、11月及び毎月8日(ごはんの日)を「地産地消強化期間」といたしました。

去る10月9日、田島町駅前広場で催された「商工紅葉祭(田島町商工会等主催)」で、「米・特用林産物の消費拡大」と「地産地消強化期間」の啓発活動を行いました。

当日、県のマスコット「キビタン」も加わり、地元産の新米おにぎりと「はたけしめじ」のきのこ汁を試食用に配りました。皆さんその場で試食され、「とってもおいしい」とたいへん好評でした。

今後も県民の皆さんにさらに「地産地消」に取り組んでいただける事を期待いたします。

(農業振興部)

グリーンアップ作戦を実施!

日頃の森林管理や木材の搬出、あるいは森林の恵みを求めて森林の散策などに利用する林道について、その沿線の草刈りや側溝の土砂上げなどの作業を行うグリーンアップ作戦が南会津農林事務所管内の2カ所で、南会津地方林業協会及び南会津森林土木協会青年部の主催により実施されました。

両日とも晴天のもと、参加者達は早朝から刈払機のエンジン音を響かせ、沿線の草刈りを行うとともに、側溝に詰まった土砂上げ作業に汗を流しました。

作業後はそれぞれ近くの山林に入り、1時間ほどキノコ(2ページに続く)



下郷町における集落営農の取り組み

下郷町の農業経営改善支援センター(役場農政振興係内に設置。役場、農業委員会、JA下郷支店、農林事務所(農業振興部、農業普及部)職員で構成)を核として、集落営農推進を支援しています。

これまで3回の打合せを行い、支援対象集落の検討や今後の具体的な支援内容について検討を行ってきています。

6月に下郷町水田農業対策会議で全集落から参加した農事組合長を対象に、集落営農の概念について説明し、その後、JAや農林事務所農業普及部と

共に幾つかの集落で集落営農のビデオによる勉強会を開催してきています。

各集落の動きにはかなり違いがありますが、芦ノ原や南倉沢集落では集落全体で集落営農に取り組んでいこうという合意がまとまり、今後、集落営農検討委員会(仮称)を立ち上げ、集落全員の意識調査等を実施し、話し合いを重ね農用地利用改善団体の設立を検討していきます。

(農業普及部)



芦ノ原集落における打合せの様子

(1ページから続く)

開催日時	実施箇所	対象路線	参加者
10月12日	田島町大字糸沢地内	林道長沢線	管内建設会社従業員等39名
10月13日	南郷村大字界地内	林道界線	管内建設会社従業員等40名

採取を行いました。

これらのキノコに対して南会津農林事務所の職員が、鑑定とキノコに係る説明を行い、参加者達は興味深く話に聞き入り、キノコ



についての認識をさらに深めた様子でした。

この行事の目的は、なかなか手入れが行き届かない林道について、この作業を通じ林道施設の管理の大事さを感じてもらい、地域への浸透を図り、林道管理の充実を図ることとキノコ等山の幸をより楽しむための勉強会を兼ねて実施しており、平成9年から始まり、今年で9回目の開催になりました。

実施箇所は各町村を毎年持ち回りで実施しており、地域ではなかなか機会のないキノコ鑑定会などに、今後広く地域の方々が参加出来るような方向で、検討が望まれます。

(森林林業部)

南会津地方森林セラピー研究会が発足しました!

去る10月18日に、会津田島ふれあいステーションプラザで南会津地方森林セラピー研究会の発足とあわせて第1回検討会を開催しました。

検討会には、太田西ノ内病院(郡山市)心療内科部長の佐々木雅之先生をはじめ、各町村の観光協会やNPO法人、緑のふるさと協力隊、福島県もりの案内人、県・町村などから38名が参加しました。

この検討会は、外部の有識者2名をコーディネーター



としてお呼びし、郡内の豊富な森林や温泉資源を利用した森林セラピーによる地域振興の可能性について公民一体となって検討するもので、当日は「ドイツ・バイエルン州の森林療法」のビデオ鑑賞や「心療内科から森林セラピーの可能性を考える」と題した佐々木雅之先生の講話をお聞きし、森林セラピーに対する理解を深めました。

今後は管内のフィールド(森林や温泉資源等)環境調査や講演会などの啓発活動を実施しながら南会津地方の特徴を生かした取組みに向けてみんなで活動していく予定です。

(地域農林企画室、森林林業部)

我ら「元気しめじ」応援隊!!

去る10月8日に下郷町物産館で行われた下郷町林業振興協議会主催の「きのこまつり」で、下郷町立植原小学校4年生が「元気しめじ」応援隊として、ハタケシメジのPRをしながら販売を体験しました。

植原小学校4年生27名は総合学習で一学期から、協議会が下郷町の特産品のひとつにしようと栽培しているハタケシメジのPRのための活動に取り組んできました。

クラスを「ネーミング」、「キャラクター」、「料理レシピ」班に分け、アイデアを出しあい、かわいいキャラクターに合わせてネーミングを「元気しめじ」と



決定、10月はじめには調理実習を行い、自分たちで考案したハタケシメジ料理のレシピを完成させました。きのこまつりでは、このレシピを配りながらPRを行いました。

子供達の元気な呼びかけにきのこはアツという間に完売し、協議会の方々も子供達の元気をもらって栽培への意欲をますます高めていました。

(森林林業部)

「森づくり体験隊」in下郷町

木材業・建築士・工務店等で構成する異業種グループ「ふるしんぶん」(代表:加藤雅之)主催による森づくり体験隊が去る10月22日に観音沼森林公園で行わ

(3ページに続く)

(2ページから続く)

れました。

主催団体は、地元産木材の活用をはじめ健康に配慮した住宅建築やリフォームに取り組



んでいるグループで、今回のイベントは一般の方を対象に間伐作業の見学やスギ丸太の加工体験等を行うことにより、林業の現状や木材の良さについて理解して頂くことを目的に企画したもので、当日は小雨まじりの肌寒い天候でしたが、郡内はもとより東京、埼玉からの家族での参加者もあり、紅葉深まる中楽しい一日を過ごしました。

(森林林業部)

南会津のこれが食べたい!!

晩秋から冬にかけて食べる郷土料理

しんごろう (田島町農林課)

うるち米を少し固めに炊き、すりこ木で半つき(半殺し)し、丸めたものに、すったじゅうねん・味噌・砂糖・酒を合わせたじゅうねん味噌を塗り焼いて食べるものです。炭火でこんがり焼いた「しんごろう」は、じゅうねん味噌の香ばしさと新米がとてもあい、おいしさは格別です。

以前は、各農家が新米の出来具合や収穫の喜びを家族や親類の人達と分かち合い、囲炉裏を囲み「しんごろう」を味わったものです。現在では囲炉裏のある家も少なくなり、一般の家庭では作ることも減ってきたようです。

「しんごろう」のいわれ

昔、「しんごろう」という人がいて、家が貧しく、餅をつくことができないので、うるち飯を丸めて餅にして、神前に供えていました。それに、じゅうねん・味噌・砂糖・酒を合わせたじゅうねん味噌を塗って焼いて食べたところ、大変おいしかったので、それがきっかけとなり、「しんごろう」という名で、この地域に広まった。

この地方の言い伝えに、「雪道と、しんごろうは、後ほどよい」というものがあります。雪道は、先の人が踏み固めてくれるので、後から歩く人が歩きやすくなります。「しんごろう」も後になるほど焼き具合が十分になり、一段とおいしさが増します。

★ 特集!

みんなで、地域農業すばらしい農村環境を、守っていこう!

～農林水産省が行おうとする新たな資源保全施策について～

農村地域にある農地や農業用水などの資源は、農家にとっては作物をつくる場となっていますが、多くの国民にとっては安定的に食料を供給してくれる、また豊かな自然環境を提供してくれるなど農業以外の多くの恵みを提供してくれる場となっています。

河川に設けてある堰や大規模な排水機場などの管理は土地改良区や役場が管理している場合が多いのですが、水田や畑などの農地や農地に接する水路、農道の管理は地域の農家の方々が管理してきました。しかし近頃の農村では過疎化や高齢化が進み、これらの管理がうまくできなくなっている状況が多く見られるようになりました。

【南会津郡の状況】

農業就業人口の高齢化率		総農家数の推移	
西 暦	高齢化率(%)	西 暦	総農業数(戸)
1990	46.2	1990	4,712
1995	57.8	1995	4,269
2000	65.2	2000	3,875

※農業就業人口の高齢化率とは、農業だけに従事した人と、農業とその他の仕事の両方に従事した人で農業が主である人の合計のうち、65歳以上の方の占める割合

このような状況を見過ごしてしまうと、農村の持つ良好な自然環境などを私たちの子供や孫たちに引き継ぐことができなくなってしまいます。農地や農業用水路などは壊れても作り直せますが、農村集落で長年にわたって培われてきた集落の仕組みや役割は壊れてしまうと、元に戻すことは大変難しくなってしまいます。

このため農林水産省では、「農地」や「水路」といった農村の資源を将来にわたって、それぞれの地域が適切に守っていけるようにするための新たな施策、具体的には、農業生産を行うために農家が通常行う作業(畦の草刈りや

(4ページに続く)

(3ページから続く)

水路の泥上げなど)に対する助成ではなく、農家以外の人たちと一体となった農村振興に効果を及ぼす取り組み(前述の通常行う作業に加え、水路などの破損部分をこまめに補修することや水路沿いに花の植付を行う取り組みなど)への助成を考えています。

この新たな施策の本格的な導入は平成19年度からになります。まだ概要しか発表されていませんが、今後、詳細な情報が入りしだいお知らせ致します。

(農村整備部)

今月のコラム

南会津の素晴らしい山々を求めて

県内には2,000メートルを超える主要な山は11座ありますが、このうち、「燧ヶ岳」や「会津駒ヶ岳」など8座が南会津地方に集中しています。

当地方は、神奈川県とほぼ同じ面積を有していますが、その93%が森林で占められており、素晴らしい山々が数多くあります。

主な山を少しだけ紹介しますと、会津西街道の宿場町として栄えた大内宿から湯野上温泉へ下る縦走コースが楽しい「小野岳」、冷風が吹き出しているため、低地でも高山植物が群落をなしている天然記念物の「中山風穴」を擁している「中山」、日本三百名山(以下日本三百名山等で「日本」は省略)であり、七つの峰を持ち、その山容から遠くからでも一目でわかる「七ヶ岳」、同じく三百名山の「荒海山」、人の名前のような「斉藤山」、地元では昔から信仰の山とされてきた「唐倉山」、平成7年に開催されたふくしま国体の山岳競技コースにもなった「三ツ岩岳」や「窓明山」、キンコウカで花の百名山になっており、山頂の高層湿原でも有名な「田代山」、沢沿いの静かな山歩きが楽しめる「大嵐山」、百名山であり、東北以北では最高峰の「燧ヶ岳」、同じく百名山であり、また、ハクサンコザクラで花の百名山にもなっている「会津駒ヶ岳」、これに連なる稜線上的お花畑が素晴らしい「中門岳」、二百名山であり、帝釈山脈の盟主でもある「帝釈山」、同じく二百名山であり、登りごたえのある上級コースの「会津朝日岳」、三百名山であり、山頂からは360度の大自然が楽しめる「浅



浅草岳頂上にて

草岳」、標高は低いながらも、急峻な円錐形の山容から会津のマッターホルンと呼ばれている「蒲生岳」などがあります。

農林事務所内で、9月上旬に、田子倉から入叶津までの「浅草岳」縦走登山を計画したところ、女性2名を含む15名の参加がありました。なかには、登山は初めてという方もおりましたが、登り4時間18分、下り3時間45分と少し時間はかかりましたが、怪我人もなく、また、一人の脱落者を出すこともなく、全員が無事に縦走することができたのです。

山頂では、残念ながら、霧がかかり視界は余りよくなかったのですが、それでも記念写真を撮るときには、全員が疲れた表情の中にも、自分の足で登りきったという達成感と充実感が満ち溢れており、いずれも素晴らしい笑顔(?)を見せていました。

今年、新たに登山道が整備され、10月10日に初めて山開きが行われた一等三角点のある「大博多山(だいはたやま)」など、前述の山以外にも、素晴らしい山々が数多くありますので、是非、多くの方に、南会津の山をじっくりと味わっていただきたいと思っております。

(次長兼企画部長 大堀満夫)



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

R100 PRINTED WITH SOYINK™
古紙配合率100%再生紙を使用しています。
この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆)インキを使用しています。